

## 記事内容

- ☆平和行動in根室
- ☆ディーセント・ワーク世界行動デー/メンタルヘルス研修会(基礎編)
- ☆災害ボランティア救援隊「継続実施研修中級編」/埼玉公務労協設立総会
- ☆関東ブロック海外視察
- ☆エコライフ21エコ大賞/11月の行動日程
- ☆あけぼのビル

## 一日も早く返還の実現を!

## 2014平和行動in根室

本年度の平和行動の最後にあたる2014平和行動in根室が9月13日～16日にかけて開催され、連合埼玉からは連合関東ブロック派遣団の一員として16名が参加した。

14日におこなわれた納沙布岬での平和集会および、15日に根室でおこなわれたシンポジウムにおいて、終戦以降の北方領土の歴史や現在の取り巻く環境、そして領土問題の平和的解決の重要性を学習した。

今回の平和行動で元島民の方の体験や思いをうかがい、また北方領土を間近に肉眼で確認できたことにより、この問題の本質に対する認識を深め、解決に向けた思いを新たにすることができた。

## 日程

## ■2014平和ノサップ集会

1日目  
(9/14)

- とき 15:00～16:00  
場所 納沙布岬・望郷の岬公園  
内容 主催者挨拶 地元歓迎挨拶 来賓挨拶  
来賓紹介 元島民の訴え 平和メッセージ  
ピースリレー 集会アピール がんばろう三唱

## ■北方領土返還を求める連合シンポジウム

2日目  
(9/15)


- とき 10:00～12:00  
場所 根室市総合文化会館  
内容 主催者挨拶 来賓挨拶  
第一部 基調講演「元島民からの訴え」  
第二部 パネルディスカッション



## 参加者氏名


- 小林 直哉 (連合埼玉会長)  
近藤 嘉 (連合埼玉副会長)  
跡部 有子 (UAゼンセン埼玉県支部)  
飯島 高一 (JAM埼玉/金子農機労働組合)  
島田 修一 (情報労連/NTT労働組合北関東総支部)  
鶴谷 一仁 (情報労連/NTT労働組合北関東総支部)  
本間 尚武 (運輸労連/熊谷産業労働組合)  
磯部 秀幸 (川越・西入間地域協議会/東光労働組合)  
山田 郁夫 (比企地域協議会  
/日立オートモティブシステムズステアリング埼玉労働組合)  
石森 博保 (西部第四地域協議会/太平洋セメント労働組合)  
村田 真人 (朝霞・東入間地域協議会/新日本無線労働組合)  
斎藤 昭博 (東部地域協議会/東京電力労働組合春日部支部)  
田島 栄作 (北埼玉地域協議会  
/曙ブレーキ工業労働組合羽生支部)  
新山 元子 (女性委員会/ヤマト運輸労働組合埼玉支部)  
梶原 健太 (青年委員会/東光労働組合)  
芳賀 剛志 (連合埼玉副事務局長)

- ①平和行動に参加したのは何回目ですか？ ②何を目的に参加しましたか？  
 ③現地に着いて最初に感じたことは何ですか？ ④今回の平和行動で一番印象に残っていること・場所はありますか？  
 ⑤感想




**小林 直哉**

- ①4回目
- ②他の3行動とは違った、しかし同根の戦争の実態を直に見ること
- ③眼と鼻の先にある北方四島のあまりの近さと、そこに自由にいけないもどかしさ
- ④集会・シンポジウムでの元島民の方の体験談
- ⑤組合役員の終盤を迎えた今年、連合平和4行動で最後に残った根室集会に参加することができた。沖縄、広島、長崎とは少し違う、しかし戦争がもたらした悲劇としては同根ともいえる北方領土問題。眼と鼻の先の島との間に越えられない線があると言われても理解することができなかった。ましてや、かつてそこで生活していた元島民の方には到底納得できないだろう。しかし、ただ返還を叫んでも解決しそうな現実。手つかずの自然を共有し、平和の島は築けないだろうか。




**近藤 嘉**

- ①初めて
- ②実際に現地に行き、現場を見て、現地の方々の話しを聞き、現実を肌で感じる
- ③平和行動を盛り上げるために全国各地から集まった様々な団体・人の多さと、思っていた以上に近かった北方四島。
- ④集会・シンポジウムでの元島民からの訴え、経験談
- ⑤国際法上も、歴史的経緯から鑑みても、北方四島が日本に帰属することは明らかなのに、なぜ…。参加が決まって以降、事前にこれまでの経過から現状を情報収集しながら現地に向かい、現場を見て、現地の方の経験談・話しを聞き、直接肌で感じる事が出来たことは、一個人として、また組合役員としての見識を高められたと同時に、改めて平和の大切さ、平和行動の意義を更に広く世論に訴えていくことの重要性を感じました。




**跡部 有子**

- ①初めて
- ②北方領土を身近に感じる為
- ③国後島がなんて近いのだろう
- ④元島民の方の話
- ⑤北方領土返還を求める連合シンポジウムの基調講演「元島民からの訴え」で講演した得能宏さんは、終戦後ソ連軍が島を攻めてきた時から島を去るまでの体験を語ってくださり、「先人の開拓した土地を返して欲しい、元島民が高齢化し、語り継ぐ人がいなくなるので北方領土は日本の領土であることを認識し返還運動を広めて欲しい、倒れるまで私は活動を続けていく」と強い口調で話されているのを聞き、島民の方々の思いが実現できるよう、平和行動に参加して良かったと思いました。




**飯島 高一**

- ①3回目
- ②当労組の平和集会の参考に。
- ③北方領土問題の難しさ
- ④元島民の方の発言
- ⑤日本が二度と戦争への道に進まないために、今こそ平和運動の大切さを感じている。平和行動in根室では元島民の人の話しを聞き、早く島に戻りたいと思っても戻れない、つらい気持ちを抱えて北海道や本州にバラバラになり、多くの元島民が暮らしている現実を知り、元島民の方々が戦争の犠牲者だと思った。平和行動in根室は貴重な体験だった。



**島田 修一**


- ①初めて
- ②忘れてはいけない歴史を学ぶこと
- ③目と鼻の先に国後島があること
- ④四島交流センター
- ⑤終戦から69年たった今でも、戦争の傷跡が多く残っているが、その1つが沖縄等の基地問題であり、その2つが原爆による被害で、3つが領土問題であると思っている。しかし、それらの問題を継続して取り組みを展開しているのが、連合を基軸とした平和行動である。初めて、平和行動に参加し納沙布岬に到着して、最初に感じたことは、本当に国後島が目と鼻の先に存在していることと、太平洋憲章によって領土拡大は求めないことを国際的に方針化していたはずなのに、この現状は本当に敗戦国である日本の政治そのものが、実体的に存在していることを感じさせる。



**鶴谷 一仁**

- ①7回目
- ②北方領土の現状
- ③思ったよりも暖かい
- ④ホテル
- ⑤北方領土返還問題については、知っていたようで、実はよく分かっていなかったと気付かされました。

シンポジウムをつうじ、ロシアの「新クリル発展計画」によって、ここ10年くらいで急速に近代化が進んでいる現状にあり、ロシア側も北方領土のインフラ整備に努めているようである。69年という長い月日が過ぎ、この問題解決に向けた道には、いまだ難しい課題が山積みしているが、一日でも早い北方領土の返還に向け、多くの仲間がこの問題を知っていただくことと国民に対する世論喚起が必要であると感じました。



**本間 尚武**

- ①初めて
- ②日本の平和を願うため
- ③北方領土はあまりにも近い
- ④元島民の話
- ⑤納沙布岬に到着してまず目に飛び込んできたのが、歯舞群島でした。当日は天気もよく肉眼での確認もできました。一番近い貝殻島は納沙布岬から3.7kmしかなく体力に自信があれば泳いで行けそうな距離でした。そんな近い島がロシアの支配下にあるというのは到底受け入れられません。北方領土は歴史的に見ても、日本固有の領土です。今後も四島が返還されるまで活動を続けて行きたいと思います。





磯部 秀幸

- ①5回目
- ②北方領土の現状を認識すること及び他労組の交流
- ③国後島・歯舞群島が何事もなかったように穏やかに見えた
- ④シンポジウムでの「引き分け」狙いの構想について強く共感した
- ⑤根室へ行くのは2回目前回と何か変わったところはないかと探してみましたが、外見では変化に気がつきませんでした。

しかし、元島民の方の話やシンポジウムにおいて、前回には無かった体験談を聴くことや現状の北方領土の様子をスライドを通して確認でき、勉強になったとともに、これらの事をたくさんの人に伝えていかなければならないと思いました。



石森 博保

- ①初めて
- ②日本固有の領土である北方四島を自分の目で見たかった
- ③69年前に戦争が無ければと歳月の重みを感じた
- ④納沙布岬。日口間の領土交渉は困難であるが全国の仲間と共に集結できた
- ⑤日本の領土問題については度々新聞やニュースで報じられていましたが69年が経過した今も返還には至っておらず今回、平和行動に参加する事で北方問題において多くの事を学びました。

戦前は1万7千人もの島民が生活をしていました。元島民の強制的に不法退去を命ぜられ島を後にした故郷への切実な思いに心を打たれました。また、現状では高齢化も進み既に1万人の方が亡くなられ「無関心」ではいけない学んだ事を多くの人に聞いてもらいたいと感じました。



村田 真人

- ①2回目
- ②-
- ③北方領土(歯舞群島・国後島)って、近い!
- ④根室市総合文化会館でのシンポジウムにおけるパネルディスカッション
- ⑤生まれて初めて行った納沙布岬から北方領土(歯舞群島・国後島)の影が見え、「なんて近いんだ!」と口に出してしまうほどの驚きがあり、また今回の行程を通じて北方領土に関する知識がとて少なかったことを自覚しました。

昨年参加した沖縄平和行動に比べて戦跡を巡ることがなく、実感としては薄いものに思えました。平和行動in根室では、ビザ無し渡航をおこない北方四島の現状を肌で感じることができるようになると、より実感できるものになるのではないかと考えます。



田島 栄作

- ①3回目
- ②連合が行っている一連平和行動を体験したかったから
- ③現地で抱えている問題をより身近に感じました
- ④根室の資料館にあった交流の場面の写真
- ⑤納沙布の式典では、遙か国後島を背にして連合沖縄・連合島根からも同志が集結した中で、盛大に行なわれる様を見て、戦争がもたらした

悲劇と言うものを思い起こしていました。玉音放送が日本国中に流れ、やっと苦しみから解放されると思っていた最中、国後島に住む人たちに突然闇はやってきました。強制退去された島民は我が家を失い、着の身着のままだったそうです。今回参加させていただいて、私たち日本人はある意味特殊な体験をしている貴重な存在なのだ...と感じました。そういった意味では、これから各地の平和行動への積極的な関わりを広く呼び掛けていきたいと思っています。



新山 元子

- ①初めて
- ②北方四島を知って1日も早く日本を返還するため
- ③-
- ④平和ノサップ集会
- ⑤納沙布岬に立ち、目の前に見える島々はとても美しく綺麗であったが、今はロシアの実効支配により行きたくても自由に行けない島々となっています。ソ連軍に侵攻され島民たちは強制的に

退去を命じられ、恐怖に怯えながら島を離れなければならなかった事実が分かりました。近く遠い北方領土は日本領土であるにも関わらず、未だにロシアに支配されている択捉、国後、色丹、歯舞は1日でも早く日本に返還されるよう私たちが現実を語り続けることと行動することが大切だと思いました。



山田 郁夫

- ①初めて
- ②北方領土問題を勉強するきっかけに
- ③国後島がこんなにも近い島とは思っていなかった
- ④元島民の得能さんの訴え
- ⑤ノサップ集会に参加するまでは「北方領土問題」があるのは知っているが内容まではよく知らなかった。元島民の得能さんの訴えを聞き、自分の故郷を一方的に奪われた人達の苦しみ、悲しみ、無念さを知り、同じ日本人として何か出来ることがないか考えるようになりました。まずは職場での話題の一つにし、一人でも多くの人に関心を持ってもらえるよう後輩たちに伝えていくことから始めます。



斎藤 昭博

- ①初めて
- ②北方領土問題を肌で感じるため
- ③北方領土問題について、知らない事が多い
- ④納沙布岬から見た島々
- ⑤ニュース・新聞等で、北方領土問題について聞きはするものの、実際に、現地において、自分の眼・耳で感じることは、大きな体験となりました。

北方四島(しま)の方々の話は心に響きました。全ては、戦争が引き起こした事ですから、平和な生活がいかに大事な事であるのかについても考えさせられました。今後は、組合役員と言うよりも、日本人として、この問題をより理解すると共に、活動に積極的に関わっていきたいと思います。



四島の架け橋



梶原 健太

- ①2回目
- ②北方領土問題を肌で感じる事
- ③壮大な自然に感動しました
- ④納沙布岬の四島の架け橋
- ⑤北方領土問題について、私はただ漠然と返還されるべきものだと思っていましたが、平和行動に参加し、この領土問題の被害者は、元島民の方は勿論、島に住むロシア人も被害者であると

感じ、双方にとって平和的な解決が必要だと思いました。島のロシア化が進んでいますが北方領土は日本の取り戻すべき財産であり、元島民の思いもあります。返還運動を続ける中で、平和的な解決策とは何かを皆で考えながら取り組むべきだと思います。

## 職場での働きがいを追及できる社会基盤の整備に向けて

### 10.7 ディーセント・ワーク世界行動デー



挨拶をする小林会長



アピールをする  
山本執行委員



アピールをする  
佐藤事務局長

10月7日(火)に「ディーセント・ワーク世界行動デー」に合わせ、大宮駅東口において街宣行動をおこなった。

「ディーセント・ワーク／働きがいのある人間らしい仕事」は、その理念として、①全ての人に仕事があること、②安全で健康的に働けること、③職場での問題が平和的に解決されること、④働く人たちの権利が保障されることという、4つの戦略目標を掲げている。

連合は、働きがいのある人間らしい仕事を実現するために、賃金、労働環境・職場環境、労働時間・休日数、仕事内容などについて労働者の尊厳や権利が守られる社会基盤を整備していくことが重要と考え、「STOP THE 格差社会！暮らしの底上げ実現」キャンペーンなどのさまざまな活動に取り組んでいる。

今回の街宣行動では、「ディーセント・ワーク／働きがいのある人間らしい仕事」の理念や、その実現のために解決しなければならない職場の課題について、また、働く皆さんの力を結集する必要性についてアピールをおこなった。

今、「ディーセント・ワーク」の礎となる働く者を守るルールが改悪されようとしている。今後の街宣行動は、労働法の改悪阻止をめざすための活動となる。



街ゆく人にチラシ入りティッシュを配りアピール



挨拶後、小林会長もティッシュ配りに参加

## 快適で健康な職業生活を送るために

### メンタルヘルス研修会(基礎編)



講師：大久保順一氏

9月25日(木)、あけぼのビルにおいて、22名参加のもと「メンタルヘルス研修会基礎編」を開催した。日本産業カウンセラー協会北関東支部、シニア産業カウンセラーの大久保順一講師を招き、グループワークも取り入れおこなった。この研修では、メンタル疾患の要因となりうるストレスへの対応や、ラインによるケア※の重要な要素である「聴き方」「伝え方」について、模擬実践も交えて身に付きやすいかたちで学ぶことができた。

メンタルヘルスは職場の労働安全衛生上、労使で取り組むべき重要な課題となっている。連合埼玉では今後も、できる限りわかりやすく実践につながる研修を開催し、この課題解決の一環としていきたいと考える。



グループワーク

※ラインによるケア…管理監督者が、職場環境を把握し、快適化に取り組み、進めることにより職場で従業員がメンタルに陥ることを防ぐ手法。  
詳しくは、厚生労働省「こころの耳」サイトをご覧ください。

## 「家庭で」「職場で」「地域で」助ける力になるために

### 災害ボランティア救援隊 継続実施研修(中級編)開催

10月18日(土)、あけぼのビルにおいて、災害ボランティア救援隊継続実施研修(中級編)を開催した。

この中級編研修は、今年から取り組んでいる体系づけた研修の一環であり、3回おこなった初級編の受講修了者73名を対象に募集し、団体登録しているJAM-ARCS隊員からの受講希望者も含め、31名が受講した。

さいたま市消防局がおこなっている上級救命講習を災害ボランティア救援隊の研修として組み入れており、ボランティアとして必要な知識という意味だけでなく、災害発生時のケガ人の対応や普段からの危機管理、防災意識の醸成も目的としている。

研修は、テキストによる学習と実習を繰り返すことで、より理解を深める形で進められた。初級編でおこなった心肺蘇生法やAEDの使用法の復習も含め、三角巾を使った止血法や傷病者の管理、搬送などのスキルを学習した。また、小児や乳児の人形も使った心肺蘇生やAEDの使用法も学習した。

今回身に付けたスキルを使う状況はないことが望ましいが、「もしもの時」に使えるよう、受講者には反復した学習をお願いしたい。また、家庭で、職場で、地域で、活かして頂きたいと考える。



乳児の人形を使っての実習



三角巾を使った止血、患部固定

## 埼玉県公務公共サービス労働組合協議会(埼玉公務労協)設立

9月30(火)あけぼのビルにおいて、「埼玉県公務公共サービス労働組合協議会(埼玉公務労協)設立総会」を7構成組織40名が参加し開催した。

開会にあたり持田準備委員長から「埼玉県から公務公共サービスの充実をめざして頑張っていかなければならない。埼玉県内全市町村で公共サービス基本条例が出来るよう運動を進めていく」との挨拶があり、その後、「第1号議案 設立について」「第2号議案 規約」「第3号議案 2015年度活動方針」「第4号議案 2015年度予算」「第5号議案 2015年度役員」が提案され、可決承認された。

また、来賓として渡辺充埼玉県雇用労働局長からは「ゆとりとチャンスの埼玉を築いていくパートナーとして一緒に頑張っていきたい」、小林直哉連合埼玉会長からは「公務公共サービス労働者の組織拡大をはかり、全ての労働者にとってよりよい環境や県民サービスにとってよりよい状況をつくるために連合埼玉も一体となり進めていく」、武正公一民主党埼玉県連代表代行からは「公契約や公共サービス基本条例の制定に向け民主党埼玉県連も地方議員が埼玉公務労協と連携をとっていく」と挨拶を頂き、高橋和哉埼玉公務労協議長の団結ガンバローで会が締め括られた。

その後、花村靖公務労協本部副事務局長を講師に迎え「公共サービス基本条例制定の意義」について記念講演をおこなった。



高橋議長



ガンバロー



花村靖公務労協本部副事務局長

### 2015年度三役役員

議 長 高橋 和哉(国公総連)	副 議 長 新井 誠二(全水道)
副議長 持田 明彦(自治労)	事務局長 永野 勝(自治労)
〃 金子 彰(埼玉教組)	

## 連合関東ブロック連絡会 「第24回海外交流視察団」

### 「ドイツに学ぶ3つの環境」

アウトバーンの周囲にはメガソーラーと風力発電が設置され、2013年には北海において海風を活用した「オフィシャルウインドパーク」という巨大風車を設置している。しかし、電気の供給不足や料金の高騰を避けるため、当面原発を止めることはできないが、ドイツは、間違いなく再生可能エネルギー政策を積極的に推進している。訪問したBOSCHにおいても、クリーンディーゼルやハイブリッドシステムの開発など、環境を常に考えた技術を革新することを経営理念とする企業意識の高さには頭が下がる思いだった。

ドイツの99%は「ミッテルシュタント」と呼ばれる中小企業であり、その点は日本と同じであるが、中小企業の元気がドイツ全体を元気にさせている。その背景の一つに、ドイツは地方政府の権限が強く、どの地域においても中小に対する厚い支援対策が打たれていることが挙げられる。さらに、ものづくりドイツにおいては商業高校や工業高校が社会的に認知されており、高校卒業後は実践教育を受けさせるために週に3回企業で職業訓練を行い、週2回の学校教育を受けるといふ、いわゆる「デュアルシステム」をとっている。学生にとっては専門的な職業技術を学ぶことができ、その殆どが訓練先の企業に就職できる。また、自分達でないと作れないものを作るといふ意識が高く、従業員を育成して社会的責任を果たそうとするドイツの中小企業に深い感銘を覚えた。

ドイツの消費税は付加価値税として一律の税率ではなく、物によって7%と19%に分類されており、税率こそ高いが、その使い道として、教育・医療・年金の無償、また賃貸住宅や購入住宅の補助など、社会福祉が充実している。また、ユーバーンと呼ばれる路面電車が発達して住民の足として大きく活躍をしていた。驚かされたのは、郊外型の大手商業施設に集中されることなく、街なかの商店街が廃れてしまわないように駅と駅の間が歩ける距離に計算されたつくりになっており、どの市町村においても必ず中央に役場と教会と商業施設がセットで並ぶまちづくりがされている。生活者に優しい環境が整備されているドイツの政策に感心させられた。

連合埼玉副会長 牧田晴充(UAゼンセン)



### 「魅力満載なドイツに、いつかきっと再訪を」

13時間以上のフライトに耐えつつ、ミュンヘン経由で到着したシュトゥットガルトへ日本時間深夜にホテル内の夕食会で、一日目が終了した。

二日目に訪問した、ボッシュFeuerbach工場では、ミーティングルームに案内され、会社の概況や歴史の紹介がされた。「自動車エンジンの将来展望は。」との質問に対し、「これからの20年で一番重要な課題。いつの日か全員が電気自動車を運転する日が来るでしょう」と、興味深い回答があった。工場見学では、ディーゼルエンジンの歴史と輝かしいレースでの戦績が紹介された後、整理整頓され、清掃の行き届いた作業環境の中で、燃料噴射ポンプを組み立てる工程と出来上がった製品の入念なチェック体制を学んだ。

印象的だったのは、トヨタ生産方式「ジャストインタイム」を採用しており、トヨタに対し感謝の念を抱いていたこと、「なぜ、作業員は帽子を被っていないのか。」との質問に対し、「過去に検討したことがあるが、作業員たちから反対された。私は、被った方がいいと思う」との、管理者としての本音が伺えたことである。



三日目のJETROデュッセルドルフ事務所では、政治・経済の話を中心に「ドイツは、物作りの国であり中小企業の国。99%以上が中小企業であり、中小企業が元気だからドイツが元気である」などといった説明があった。

思ったより強行軍で、余裕はなかったが、魅力満載なドイツを体験することができた。縁あって、今回初訪問したドイツ。日常会話をこなせる英語力と長時間フライトをものともしない忍耐力が身に付けば、いつかきっと再訪することだろう。メルセデス・ベンツの購入とドイツ再訪のどちらの確率が高いか、私にもそれは分かりません。

連合埼玉執行委員 高橋和哉(国公総連)



“エコ”な  
アイデア  
大募集!

連合は「連合エコ大賞」を新設し、みなさまの取り組みに対する表彰を通じて、「環境にやさしいライフスタイルへの見直し」をより一層進めていきます。  
どうぞふるってご応募ください。

**募集内容** 2014年(1~12月)に取り組んだ環境保全および節電等に関する活動  
(例)環境にやさしい10の生活、省エネ・省資源・リサイクル、植林活動、清掃活動、環境に配慮した製品の購入、産業の特性に対応した取り組み、地域性を活かした取り組み、広報・啓発活動、学習活動など

**応募資格** ① 組織の部 構成組織・地方連合会・加盟労組・関連団体 ※組織単位は問いません。  
② 個人の部 連合加盟組合員、関連団体関係者およびその家族

**応募締切** 2015年1月31日

**応募方法** ウェブ上にある、所定フォーマットへの入力による応募を原則とします。  
詳しくはWebで! [URL http://www.rengo.org/ecoaward.html](http://www.rengo.org/ecoaward.html)

**表彰** **大賞** 副賞5万円相当(1件)  
**部門最優秀賞** 副賞3万円相当(2件/組織・個人の部)  
**優秀賞** 副賞1万円相当(5件)

**その他** ・応募の際にいただいた個人情報は、応募後の問い合わせや連絡など、応募・表彰以外の目的には一切使用いたしません。  
・入賞作品は、「連合エコライフ21」ホームページに掲載させていただきます。

**お問い合わせ先** 日本労働組合総連合会(連合) 社会政策局  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11  
**電話** (03)-5295-0522 **FAX** (03)-5295-0546

**現在予定される11月の日程表です**

11月		行事等	
		連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	土		
2日	日		
3日	月		
4日	火	第4回ライフサポートステーション運営会議(10:00~連合埼玉会議室)	
5日	水	第12回四役・執行委員会(10:00~13:00~ときわ会館)	
6日	木	教育フォーラム(13:30~ときわ会館)	①埼玉労協理事会(10:00~ときわ会館) ②熊谷・深谷・寄居地域協議会「第4回幹事会」(18:15~ネット21熊谷)
7日	金		①埼玉県私鉄「第39回定期大会」(11:00~東武鉄道春日部支部会議室) ②基幹労連埼玉県本部「第12回定期大会」(18:00~東武バンケットホール)
8日	土		
9日	日		①埼玉教組「第25回埼玉教育研究集会」(9:30~国立女性教育会館) ②フード連合埼玉地協「第13回代表者総会」(10:00~大宮ソニックシティ) ③県央地域協議会研修会(13:00~伊香保「木暮」) ④秩父地域協議会組織代表者会議(13:30~水上ホテル聚楽)
10日	月		
11日	火		JR連合埼玉県協「第19回定期委員会」(13:30~さいたま市産業振興会館大会議室)
12日	水		地方連合会事務局長会議(13:30~連合会館)
13日	木		
14日	金		北埼玉地域協議会幹事会部会合同幹事会(18:30~ルートイン羽生)
15日	土		
16日	日		連合関東ブロック連絡会幹事会(15:00~ホテルニューイタヤ)
17日	月		
18日	火		ときわ会館理事会(10:30~ときわ会館)
19日	水		
20日	木	第19回地方委員会(10:00~浦和ロイヤルバインズホテル)	
21日	金	①STOP THE 格差社会!労働法改悪阻止宣言(13:00~県南部) ②STOP THE 格差社会!労働法改悪阻止県内一斉駅頭(18:00~大宮駅東口)	比企地域協議会幹事会(18:00~労金東松山支店)
22日	土	STOP THE 格差社会!労働法改悪阻止宣言(9:00~県南東部)	
23日	日	STOP THE 格差社会!労働法改悪阻止宣言(9:00~県北部)	
24日	月	STOP THE 格差社会!労働法改悪阻止宣言(9:00~県南西部)	
25日	火		
26日	水		
27日	木		
28日	金	①青年委員会第11回幹事会(13:00~連合埼玉会議室) ②青年委員会第26回総会(15:00~あけぼのビル)	関東ブロック女性会議(~29日・山梨県)
29日	土		
30日	日	ユニオン連合埼玉定期総会(あけぼのビル)	

# あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

先月のあけぼのビルでは、敗戦から経済成長期までの労働運動について記述した。本号でも引き続き、労働運動の歴史について記述する。

## ◆労働戦線統一のプロセス

労働組合が政策・制度要求に取り組み始めた発端は、1973年の第一次オイルショックだった。年率30%におよぶ狂乱インフレに対応するためには、賃上げだけでは追いつかず、政策によってインフレを鎮静化させる必要があると考えた。

1976年には労働4団体の枠を乗り越えて、民間16単産による「政策推進労組会議」が発足した。10月7日の政策推進労組会議の結成総会で採択された結成趣意書では、「日本経済が高度成長から安定成長へと転換がはかられるなかで、労働者の生活を守り安定させるためには、今日の政策・制度の抜本的な改革をはかることが必要不可欠であり、緊急課題です。私どもは当面、『経済政策』『雇用』『物価』『税制』の4つに重点項目をしぼり、積極的に共同行動を推進すべきだと考えます」と決意を表明している。そして、さらなる政策実現のために、民間の組合が大同団結し、ひとつのナショナルセンターに向かうことを確認する。

1980年には、6単産の代表者が責任者となり、「労働戦線統一推進会」を発足させ、広い範囲の課題について論議することを確認した。労働戦線統一推進会は紆余曲折を経ながらも、1981年発足の労働戦線「統一準備会」へと進展していく。労働戦線統一推進会における確認事項は、①民間連合の基本文書（進路と役割）の尊重、②国際自由労連への加盟、③統一労組懇系の排除で、これを基本にしてナショナルセンターを1つにすることであった。

1982年12月14日に全日本民間労働組合協議会（全民労協）が発足する。これにより、労働戦線統一は早まり、1987年11月20日には全日本民間労働組合連合会（全民労連、連合）が発足、1989年11月21日に労働4団体の統一組織である日本労働組合総連合会（現在の連合）を結成、12月16日には連合埼玉が結成された。

ちなみに1989年は、世界的な転換期でもあった。国内では、1月8日に年号が昭和から平成に替わり、4月1日には消費税3%が施行された。国外では6月4日に天安門事件、11月10日にベルリンの壁が崩壊した。

一方、こうした動きを統一戦線促進労働組合懇談会（統一労組懇）は、特定政党排除の「革新分断」、賃上げ自粛

や人減らし「合理化」容認の「労使協調」路線など特定の運動路線を踏み絵に、これを容認する組合だけを結集する「労働戦線の右翼的再編」と批判した。この再編の流れを右傾化と批判する組合が1989年11月21日に全国労働組合総連合（全労連）、12月9日に全国労働組合連絡協議会（全労協）を相次いで組織した。連合結成の路線は批判勢力を排除する再編だったため、連合に合流する組合も全労連や全労協に合流する組合も、分裂した組合が数多くあった。

## ◆真価が問われるとき

連合が結成された最大の目的は、政策の実現だった。結成大会で「『力と政策』をもって新しい運動を切り開いていく」とアピールし、求める政策の実現のためには、労働者・生活者の視点に立った政治の実現が欠かせないことから、自民党に代わる政権交代を訴え続けてきた。

一方、連合の結成と時期を同じくして、日本はバブル経済崩壊によりデフレ経済へと変わっていく。まさに連合25年間の運動はデフレ経済との戦いと言える。長引くデフレ経済下において、所得の格差、企業規模間の格差、雇用の格差、教育の格差、地域間の格差など、ありとあらゆる格差が進んでいった。

失業率は1995年に3%を超え、その後、急速に悪化していった。2009年7月には過去最悪の5.7%にもおよんだ。そして1998年から14年連続で自殺者3万人を超え、生活保護受給者は一向に減少せず216万人、ワーキングプアは1,069万人、非正規労働者は1,939万人と雇用労働者の約4割を占めている。

さらに深刻な問題は貧困社会へと進んでいることである。厚生労働省が2014年7月にまとめた「国民生活基礎調査」によると、等価可処分所得の中央値の半分の額に当たる「貧困線」（2012年は122万円）に満たない世帯の割合を示す「相対的貧困率」は16.1%である。これらの世帯で暮らす18歳未満の子どもを対象にした「子どもの貧困率」も16.3%となり、ともに過去最悪を更新した。これは、日本人の約6人に1人が相対的な貧困層に分類されることを意味する。

安倍政権において議論が進められている労働者保護ルールの改悪を阻止しなければ、さらに格差社会は拡大をしていく。連合評価委員会から提言された、「不条理に立ち向かう労働運動」、「弱い立場の人たちの側に立つて行う労働運動」、そして、「その不条理に対して怒りをもって行動できる労働運動」、このことの展開こそが労働戦線の統一、そして連合結成の意義であり、今こそ連合の真価が問われるときである。

2014.10.20